

事業部 最前線

聖隷では、幅広い事業分野において質の高い専門サービスを提供すべく、事業部制を採用しており、9つの事業部が存在します。この企画では一つの事業部の「旬」な情報を紹介していきます。



聖隷袋井市民病院 地域に信頼される 病院を目指して



西館

- 5F 病棟 (療養)
- 4F 病棟 (一般)
- 3F 病棟 (回復期リハビリ)
- 2F リハビリテーション室・厨房
- 1F 会議室

検査棟

- 2F 袋井市管理区域 (旧検査)
- 1F 袋井市管理区域 (旧放射線)

東館

- 5F 袋井市管理区域 (旧病棟)
- 4F 袋井市管理区域 (旧病棟)
- 3F 袋井市管理区域 (旧病棟)
- 2F 袋井市地域包括ケア推進課 (介護ケア) 袋井市健康づくり課
- 1F 検査・画像診断室

南館

- 5F 袋井市管理区域 (旧病棟)
- 4F 袋井市管理区域 (旧病棟)
- 3F 袋井市管理区域 (旧病棟)
- 2F 医局・袋井市地域包括ケア推進課 (地域医療)
- 1F 外来・薬局・事務課・袋井市休日急患診療室

はーとふるプラザ袋井
(袋井市総合健康センター)

※図説内黄色文字は聖隷管轄

画像 ©2020 CNES / Airbus, Landsat / Copernicus, Maxar Technologies, 地図データ ©2020

開設時は常勤医1名・1病棟体制でのスタートでしたが、熱意をもった職員らの努力、行政からの支援、地域の医療従事者・住民の皆さまからの励ましにより、一般、療養、回復期リハビリテーションの3種の機能を有する病院として、中東遠地域に欠かせない病院になることができました。

また、指定管理者のモニタリングでは、「常勤医師やリハビリスタッフの増員を進めるなど地域包括ケアシステムの医療分野の核として医療提供体制の充実に努めている。加えて訪問リハビリテーションの開始、電子カルテの導入など新たな取組を通じて、サービスの向上とともに運営の効率化も進めている。また、医師やリハビリスタッフを地域や各種会議にも積極的に派遣したり、市民公開講座、病院食での地産地消などにも着手したりするなど、患者や利用者によりよいサービスを提供する姿勢を評価する。」としてA評価を受けることができました。

開院から7年が経過 中東遠地域の医療を聖隷精神で支えています



- | | |
|------|---------------------------|
| 病院長 | みやもと つねひこ
宮本 恒彦 (写真中央) |
| 看護部長 | あつみ なおみ
渥美 直美 (写真右) |
| 事務長 | かじま ひろみ
梶間 弘美 (写真左) |



Pickup!



看護師
回復期リハビリテーション認定看護師として活動

リハビリを行う中で患者さんの「生きがい・人生」に関わり、退院後の生活をより良くするために

スタッフ一丸となって取り組んでいます。回復期認定看護師を中心に、患者さんに必要なケアを実践するために日々邁進中です。スタッフ同士の円滑なコミュニケーションのもと、アットホームな雰囲気の中で退院支援を実践しています。

GoTo フクロイ!



袋井市キャラクター「フッピー」です。聖隷袋井市民病院をご案内するのです!

患者さん・ご家族がその人らしく いきいきと暮らせるように支援しています!

3階病棟 ひまわり 回復期リハビリテーション病棟 課長 松尾 はる美

患者さんやご家族、仲間と語らい 学びを深められています!

4階病棟 ゆり 一般病棟 課長 貝久保 浩子



先輩が若手らの発言を支援 (退院支援カンファレンス)

リハビリして在宅に戻る方や病氣と向き合う方など、個々の患者さんのニーズを理解して緩和ケアや家族看護を提供しています。患者さんの持てる力を引き出して、回復過程を支援するには他職種との連携は不可欠なので、日々リハビリスタッフや医療相談員らと対話し、卒後教育も協働しています。専門職の役割を活かした関わりで患者さんの希望が叶うのは何とも幸せ!みんな全集中で語りあっています。



Pickup!
病棟クラーク
院内保育所を利用しながら大活躍!

Pickup!



介護福祉士
看護助手として、働きながら介護福祉士実務者研修を受講し、2019年に介護福祉士資格取得。

「生活」の場として

5階病棟 コスモス 療養病棟 課長 中安 輝美

今後も看護・介護・リハビリスタッフの3職種が協働し患者さんが安寧に療養生活を過ごして頂けるよう努めてまいります。

昨年より、「寝たきり患者さんの緩下剤を使用しない排便コントロール」「スキンケアの予防ケア」「患者さん・ご家族の意向シートを活用した看取りケア」にも取り組んでいます。それぞれの取り組みは全て効果が現われており、看護・介護スタッフのやり甲斐となっています。また今年度より、個々の患者さんに合わせたポジショニング方法、関節可動域訓練をリハビリと共に計画し実施しています。



季節ごとのイベントを開催しています。

聖隷福祉事業団と袋井市がタッグを組んで 地域包括ケアシステムを支える拠点『袋井市総合健康センター』

袋井市総合健康センター長



袋井市キャラクター「フッピー」を囲んで（左側4名袋井市職員）

袋井市総合健康センター（愛称：はーとふるプラザ袋井）は、『保健、医療、介護、福祉』のサービスを一体的に提供する施設として整備され、センターの一部である聖隷袋井市民病院には医療分野を担っていただいています。

急性期病院を脱した患者さんが住み慣れた地域へ復帰するためのサポートや、認知症の方、その患者さんを支える家族の支援、介護サービス事業所との連携など幅広い分野で地域包括ケアシステムにおける重要な拠点としての活動を展開されており、この地域に欠かせない存在になっています。



しぞ〜かでん伝体操出張指導の様子

しぞ〜かでん伝体操出張指導

～元気になる地域から～



黄色のポロシャツが目印です

しぞ〜かでん伝体操出張指導は、袋井市介護予防事業「地域リハビリテーション活動支援事業」の一つです。本体操は名前の通り、「しぞ〜かでんむし」の音楽に合わせてゆっくり行う運動です。リハビリ専門職が公会堂や公民館へ出向き、より効果的な体操指導を行っています。



管理栄養士と袋井市職員（前列左）、給食委託会社（日清医療食品）スタッフ（後列5人）

まるごとふくろい じもとごはん

地元食材をたっぷり使ったスペシャルメニュー！



2020年10月実施 秋の献立

地域に密着した病院づくりと地産地消を目的に、今年度より季節ごと年4回企画しています。袋井市地域医療推進係と給食委託会社の柔軟な対応により実現しています。患者さんに喜ばれる食事が提供できるように、皆で工夫してまいります。

地域別職員数(人)

(2020年10月1日現在)

中東遠地区の雇用を創出

26	41	68	10
掛川市	磐田市	袋井市	森町
13	12	8	7
浜松市浜北区	浜松市中区	浜松市北区	浜松市東区
6	4	3	5
浜松市西区	菊川市	浜松市南区	その他

数字で見る聖隷袋井市民病院

5年前と比較して、職員数は約2倍

職種別職員数(人)

(2015/10/1 ▶ 2020/10/1)

92 ▶ 203	3 ▶ 6	33 ▶ 80	4 ▶ 6
全体	常勤医師	看護師	准看護師
8 ▶ 16	8 ▶ 12	3 ▶ 4	2 ▶ 2
介護福祉士	看護助手	薬剤師	臨床検査技師
8 ▶ 24	5 ▶ 20	1 ▶ 4	1 ▶ 2
理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	管理栄養士
			14 ▶ 24
			事務職

訪問リハビリテーション事業を開始

リハビリテーション室係長
作業療法士

医療と介護の連携

2019年4月より、訪問リハビリテーション（以下、訪問リハ）事業を開始しました。本事業の目的は、当院を退院した患者さんが、退院後できるだけ早い段階でリハビリテーションを開始することで、医療と介護の連携を深め、自立生活の支援や重度化の防止を図ることにあります。回復期病棟を中心に、一般病棟や療養病棟を退院する方で、要支援もしくは要介護認定を受けている方を対象として、理学療法士（PT）や作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）がご自宅を訪問してリハの提供を

行っています。

リハビリ科医師との連携

当院の訪問リハの特徴として、医師の関与が大きな役割を果たしています。一般的に介護保険で行われるリハサービスには医師の関与が未だ不十分であるのが現状です。当院の訪問リハは、より効果的かつ効率的に最短で目標達成できるリハビリを提供するために、医師と療法士でカンファレンスを毎週行っています。

言語聴覚士の訪問リハ開始

入院中に嚥下造影検査や嚥下内視

鏡検査を行い摂食条件を確立、自宅で安全に経口摂取ができるよう家族や関連職種へ指導・助言を行います。その他、失語症等の高次脳機能障害者への支援も行っています。

利用者と共に歩み続けます

利用者さんが住み慣れた地域で安心して生活できるように、これからも利用者さんに寄り添い、些細な要望にも笑顔で応え、目標達成のために支援し続けていきます。そして、医療との連携、在宅支援の架け橋となるように発展していきたいと思えます。



PT、OT、ST が揃う訪問リハチーム



自宅で嚥下評価や訓練を継続しています



動画を見ながら医師と一緒にディスカッション



当院には「ふくろい ふれあい ファーム」という花壇があります。四季に合わせ植物を植えており、鑑賞や苗植え・収穫など、職員・患者さん一体となって楽しんで育てています。

カモンカモ
やってきます!



仕事と育児の両立 育児休暇を取得して



2人目の
子供が生ま
れたとき育
児休暇を取
得しました。
夫婦一緒に



子育てをすることで、子供と大切な時間を過ごすことができました。職場も協力的で、職場復帰する際もスムーズに業務を行うことができました。今年、男性スタッフ2名が育児休暇を取得予定で男性スタッフの取得が広がっている職場です。

リハビリテーション室係長 作業療法士

病院機能評価の 認定を受けました



病院機能評価を受審し2020年7月に認定を受けました。

当院では、2019年9月に電子カルテを導入し、医療サービスの向上、効率化に取り組んできました。今後も、地域に根ざし、安全・安心、信頼の得られる質の高い医療サービスを提供するため、努力を続けます。

臨床検査室 技師長 臨床検査技師

“ストレス” な検査環境を



『狭い、暗い、怖い』そんなMRI検査を快適に過ごしていたくために『明るいMRI室』を作りました。扉を開けた先は別世界。天井のステンドグラス、部屋の角をなくした温かみのあるお部屋が患者さんをお迎えします。映像と音楽を楽しみながらの検査は、閉所が苦手な患者さんにも好評です。

画像診断室 診療放射線技師

住み慣れた場所での生活をお手伝いする ことで、地域貢献を目指します。

在宅支援室は2019年4月に当院のセンター機能の一部として設置され、最初の取り組みとして訪問リハビリテーションを開始しました。

現在、医師3名・看護師1名、リハビリ職2名、社会福祉士1名、事務3名がメンバーとなり、訪問診療、訪問リハビリ、看護訪問、連携・支援、人材育成のプロジェクトチームに分かれて、職種横断的な活動をしています。

みんなで知恵と汗を出して頑張っていますので、中東遠地域での聖隷袋井市民病院の活躍にご期待下さい。

みなで知恵と汗を出して頑張っていますので、中東遠地域での聖隷袋井市民病院の活躍にご期待下さい。



在宅支援室の目的

- ①地域住民が
(袋井市+当院から5km圏内)
 - ②自宅で
 - ③最期まで
(看取りまで)
 - ④自分らしく生活し続けるための
(QOL向上、健康寿命延長)
支援をすること
 - ⑤人材育成および院外
連携先との“チーム感”
を醸成すること
- また、
そのための